

美人と申すによって

辻 憲男（文学部教授）

昔は夫婦がいっしょに旅をすることはまれであった。夫は家の妻を思い、妻は夫の無事を祈った。万葉歌人・高市黒人（たけちのくろひと）は、

我妹子（わぎもこ）に猪名野は見せつ名次山角の松原いつか示さむと歌った。わが妻に猪名野は見せた、次はこの美しい浜辺を見せてやりたい。名次山（なすきやま）は広田神社の西の丘、角（つの）は今の西宮市津門という。

西宮といえばえびっさん。ニコニコえびす顔、釣り竿と鯛をかかえた商売繁盛の福の神の総本社である（夷、戎、恵比須）。伝承によると、海中からあらわれて、豊漁と繁栄をもたらす。毎年一月十日の大祭の前夜は、えびす様が本社の広田社へいでますので、どの家も戸を閉じ、お顔を見ないように忌みこもった。親しい者どうし酒を飲み、豆腐の田楽や汁物を食する。夜明け方から参詣人がつめかけ、物売り・歌舞芸能・見世物芝居なども出て大変にぎわうのである。

現世ご利益の願いは一幕の喜劇になった。さる財力のある親が一人娘のムコ探しをする。高札を掲げて金持ちをつのが、似合いの男が見つからない。西宮のえびす三郎殿と京都鞍馬の毘沙門天（びしゃもんてん）が、「承れば、娘も美人じゃと申すによって」われこそがムコになろうとやって来る。はち合わせをして、父親の前で互いに「さぶ」「びしゃ」と悪口を言い合い、舞を舞ったり、贈り物を競ったり。とうとうどちらの福神もこの家にとどまった（狂言「夷毘沙門」）。神様もどうやら、金と欲には勝てぬようでござる。



広田神社の「浜の南宮」は、西宮神社の境内にある。